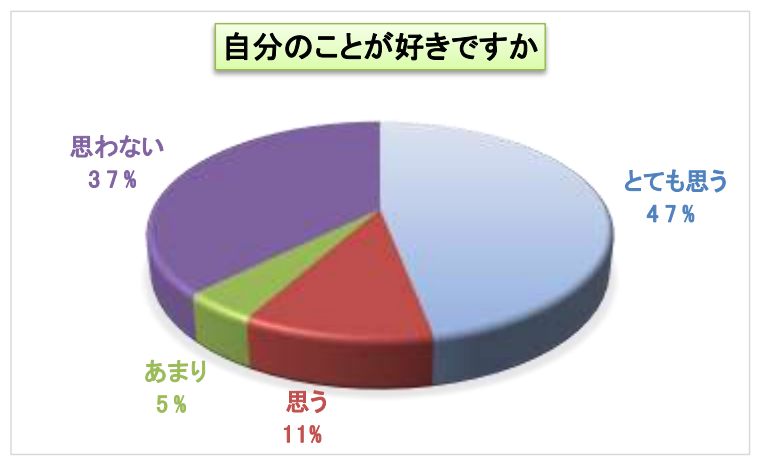


## 「自分のことが好き」と言える子どもたちに

右のグラフは、1学期末に龍野小学校の全児童に尋ねたアンケートの結果です。「自分のことが好きですか」という項目で、4割の児童が「思わない」、「あまり思わない」と答えているのです。この結果で、全てを判断することはできません。(小学生はその時の状況で結果は左右されることもあるので。)ただ、4割以上の児童が「自分を好き」も悲しく思いました。しかし、この結果は、私たち大人にも大きな要因がある場合も考えられます。



- ①「わあ、〇〇ができたね。」「すごいね。みんなより早くできたね。」と子どもたちを評価し続けたら、「できれば○」「できなければ×」と自分自身を評価する子どもが育っていきます。
  - ②「わあ、毎日練習をがんばったから〇〇ができるようになったね。」「(できなかった子) 〇〇はできなかったけど、毎日練習していたあなたはすごいよ。」と声をかけていたら、「努力する自分○」「がんばる自分○」とその過程での姿で自分を認めることができるようになってきます。
- ご家庭では、①、②のどちらの声かけが多いですか？私も、子育てを振り返るとなかなかできたとは言いがたいところもあります。①の声かけばかりだと、「できない自分がダメ」と自分にダメだしをしてしまいます。

もちろん、できるようになることはとても大切なことです。ただ、取り組んでいる過程でのがんばりに目を向けて子どもたちを育てていくことで、将来あらゆる困難にも立ち向かっていける子どもたちを育てていけます。「がんばっていてもできない」時、がんばりを認められていると、「やり方をかえてみよう」と努力する子どもが育っていきます。様々な本にも「結果ではなく過程をほめよう」と書かれています。過程をほめることで、努力し続ける子どもを育て、「自分のことが好き」だと思える自尊感情も育てることができます。

「自分のことが好き」という自尊感情には、たくさんのパワーの源になります。「自分が好き」だと思えることで、自分を大切にできます。やる気もです。また、他の友達にもやさしく接することができます。「〇〇が苦手なところもあるけど、自分にはこんな一面もあるよ。」とあるがままの自分を肯定できる子どもになってほしいと思っています。

龍野小学校では、「自分のことが好き」と言える子どもたちを育てていきます。無限の可能性をもった子どもたちです。学校・家庭・地域で育てていきましょう。

### あいさつする子が増えましたね！

昨年から龍野小によく来られている方から、今日うれしい一言が。「あいさつする子が増えましたね。」と言われました。少しずつですが、自分からあいさつする子どもたちが増えてきたとのこと。あいさつは2学期の重点目標の一つです。あいさつは「心と心をつなぐ架け橋」です。「あいさつ響く龍野小」にきつとなると信じています。